

## 会 議 録 ( 要 旨 )

会 議 の 名 称	平成 27 年度 第 2 回東村山市みんなで進めるまちづくり基本条例見守り・検証会議				
開 催 日 時	平成 27 年 8 月 26 日 (水) 午後 7 時～9 時				
開 催 場 所	東村山市役所いきいきプラザ 3 階 マルチメディアホール				
出 席 者 及 び 欠 席 者	<p>●出席者：</p> <p>( 委 員 ) 西村委員 ( 会長 )、紺野委員 ( 職務代理 )、高橋委員、十時委員、 鳥本委員、平野委員、山崎委員</p> <p>( 市 ) 渡部市長、荒井副市長</p> <p>( 事務局 ) 小林経営政策部長、清遠経営政策部次長、 安保企画政策課長、足立企画政策課主査、南波企画政策課主任</p> <p>●欠席者：無</p>				
傍 聴 の 可 否	可	傍聴不可の場 合はその理由	/	傍聴者数	4 名
会 議 次 第	<p>1 市長挨拶</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 前回会議録の確認</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 検証作業</p> <p style="padding-left: 40px;">①市民産業まつり</p> <p style="padding-left: 40px;">②ごみの出し方の変更</p> <p style="padding-left: 40px;">③市制施行 50 周年記念式典</p> <p>3 その他</p> <p style="padding-left: 20px;">○次回開催日程について</p>				
問 い 合 わ せ 先	<p>東村山市みんなで進めるまちづくり基本条例見守り・検証会議事務局</p> <p>( 東村山市経営政策部企画政策課 )</p> <p>〒189-8501 東村山市本町 1-2-3</p> <p>電話 042-393-5111 (内線 2213)</p>				
会 議 経 過					
<p>1 市長挨拶</p> <p>【渡部市長】前回第 1 回目の会議において「みんなで進めるまちづくり基本条例」に掲げられた基本原則「情報共有」「市民参加」「市民協働」が、どのようにまちづくりに反映されているかを検証することがこの会議の目的であると確認した。その中で、平成 26 年度に市が取り組んだ市民への「情報共有」という視点から、様々な情報発信や計画策定における「情報共有」の実情について、資料をお示しした。膨大な量になるため、議論の的を絞るべきとのご意見をいただき、今年度においては、4 事業を選択し「市民との情報共有」について議論することになった。その 4 事業について事務局で資料作成を行ったが、それでもかなりの量となるため、会長と相談の上、今回は更に 3 事業に絞らせてもらった。昨年の代表的な事業として、エポック的な「市制施行 50 周年」、毎年開催の市最大規模のイベント「市民産業まつり」、ごみの収集形態を大幅に変更した経緯から「ごみの出し方の変更」を選択した。駐輪場については今回選択しない。実際には市民に対して手元にある資料のような形で情報提供を行ったが、それがどの程度効果だったのか、市としてはイベントの</p>					

参加人数等で間接的に把握するに留まっている。その辺りを委員に議論いただき、市民へより効果的に情報共有を図るにはどうすれば良いか、どのような課題があるのか、検討いただければと思う。また、自発的に認知度調査をしていただいた委員におかれては、ありがたく思う。これを見ると、50周年について「知らなかった」と回答される方もいて、市としてかなり情報発信をしてきたつもりだったので、驚いている。その辺りにもどのような課題があるのか、掘り下げて検討していきたい。よろしく願います。

## 2 議事

(1) 前回会議録の確認 ○全委員の了承を得て、HPに公開することが決定された。

(2) 検証作業 ○事務局より、検証対象として3事業を選択したこと及び、本日の検証作業の進め方についての説明を行った。

【会長】事前に事務局から配付され、記入してきた検証シートを元に、委員一人ずつ2分程度で発表を行ってもらおう。会長は司会に徹する。

①市民産業まつり ○事務局より「市民産業まつり」についての概要説明を行った。

(「事業に関する手法等の調査票「市民産業まつり」参照)

【委員】書類上では写真の写りが悪いと感じHPで実物を確認したが、思ったよりも綺麗な画像だった。ただ、情報量として多いと感じたので3(どちらともいえない)の評価である。もう少しコンパクトにしても良い。ポスターの発行時期は10月10日からとのことだが、日程だけでも広報記事で年度当初に告知しても良いのではないかと。ポスターの発行時期だけでは告知の評価はできないので検討してほしい。また、プログラムについては、来場者数からみても当日配布数が足りないと思われ3の評価とした。当日分が足りなければ、プログラムをコンパクトにしたものを配布するなど工夫してみてはどうか。庁内放送は、アクセスについての注意点がメインになっているので、放送の目的が不明だった。イベント自体のPRなら別の放送内容があるだろう。ただ、庁内放送の共通認識としてアクセスについての注意点を放送するのだということであれば、このままでも良い。

【委員】概ね良いと思うが、プログラムの配布場所については3(どちらでもない)の評価とした。別の委員提供資料にもあるが、当日プログラムの配布をしているというが、もらったことがないという意見に私も同意する。ごった返しているということもあるが、当日配布する冊数を増刷するなり、事前にもっと配布するなりした方が良い。当日どこにプログラムがあるのか分かり辛い。

【委員】独自調査について触れておく。この調査は、民生委員を務めている中で市民のところを回り、一人ひとりからアンケートを取ったものである。回答者は70歳以上で、女性が9割、男性が1割という偏ったアンケートであるということを一承願いたい。自分が第一に感じたのは、市から様々な情報が流れてくるが、チラシや新聞に挟まりそのままどこかへ行ってしまふ、高齢者には特にそういった人が多い。市民産業まつりを見てもチラシに様々な色を使っているが、例えば、「産業まつり」はエンジ色に統一するとか、事業毎に色分けするような工夫ができないか。色を見れば、自分の興味のある事業か否か分かるように。検証シートの「レイアウト」の項目で3(どちらともいえない)を付けたのはそういった理由である。ポスターの中で「掲示枚数」の項目があったが、自治会にポスター掲示の依頼をしていない。もっと行き渡らせることができるのではないかと。

ような理由で、3の評価としている。プログラムも先ほど別の委員から意見があったように、どこにあるのか、もらったことがないため、配布枚数を4(あまり適切でない)の評価としている。産業まつりの庁内放送はこれで良いと思うが、別の事業には意見がある。それは後程話したい。

【委員】市に住んで何十年にもなるが「産業まつり」を知らなかった。市民活動に関わるようになってから2年～3年ほどになるが、周囲から祭りに誘われた記憶がない。家族構成が高齢化しているため、興味の対象が違うということも理由にあるかもしれない。日中勤務している世帯にとっては、このような催しはあまり知られていないのではないかと。個別の評価はさておき、自分が10年間、ひたちなか市に住んだ経験から述べると、勝田マラソンや真夏に開催されるロックの祭典など、始まった2000年当初は3万5,000人程度の参加者でありながら、今では17万人ほどになり、知名度の高い大イベントになっている。振り返って産業まつりになると、先ほどの70歳以上の高齢者でなくとも、それほど知られていないのではないかと。「産業」というネーミングの問題もあるかもしれない。自分は東京ビッグサイトでやるような「見本市」のイメージを持ってしまった。名前を変えれば良いということではないが、一般受けするようなネーミングを考える、そんなところから入っても良いと思う。

【委員】市報の写真について、全員が後ろを向いている。情報セキュリティの関係もあるのだろうが、折角の祭りの写真であれば笑顔が欲しい。写真を撮る際、ひと声かけて許可をもらうなどすれば良いのではないかと。本番のイベントでは、自分も参加したがステージの場所が分かり辛いという話が出ていた。会場に矢印を設けるなど、位置が分かるようにして欲しい。市報の宝船の写真は、宝船に見えないので、もう少しアングルを考えてほしい。200円で袋いっぱい野菜がもらえるという「宝船」の説明・アピールを入れても良いのでは。市報掲載のプログラムにしても、イベントが複数個所で同時に行われるので、一つのイベントが何時から何時まで実施されるのか分かり辛い。次に見たいところへ行けないという声が多かった。HPについては「東村山の楽しみ方」から産業まつりのページに入らねばならないことに戸惑いを覚えた。イベント・行事特集など分かるようにした方がいいと思ったが、自分の子どもはスムーズに目的のページを見つけたので、それはそれで良いか。HPも文字からアクセスするよりも写真からアクセス出来た方が良い。主婦層からの声としては、ポスターをよく見かけたという声が多かった。小学校の子どもについては、印象がないということだった。掲示する位置・場所が関係してくるのではないかと。庁内放送については、前日・当日どちらの案内かが分かり辛い。高齢者は何日に実施するのか混乱してしまう。プログラムの書き方だが「食事コーナー」など、すぐに分かるような記載方法を検討してほしい。また、駐輪場の場所が市報には載っているがプログラムには載っていない。総合すると、11万の集客を得たということは大成功ではないか。勝因はやはり「日本エレキテル連合」か。今年度は招待するタレントによってこの11万が変動するか心配もある。高校野球で活躍している六中出身のオコエ選手などを呼べたら良いのではないかと。

【委員】評価をするにあたっての資料が不足している印象。これだけの資料を送られると、市側の一方的な情報発信という気がしてしまうので、手法毎の役割の相関性、例えば「市報」を見た人がより詳細な情報を知りたければ「HP」など、そういったものを示してもらえると、もっと評価しやすい。HPもURLをそのまま記載するのではなく、検索エンジンにヒットしやすくなる工夫をして欲しい。HPのアクセス数、HPを見ての問合せ件数などが出てくると、より評価もしやすい。

【会長】委員の意見を一通り聞いてきた中で、印象的だったのは、市報の写真に笑顔がないという

こと。プライバシーの問題もあるが、市報に後頭部ばかり映っていてもどうなのかと。だとしたら、メインに映っている人に了承をとって載せるというのは一つのアイデアか。また、プログラムを見たことがないという意見も多かったが、予算が足りなければ、優先的に配布する場所の見直しや、市報で配布場所を示すなど、情報発信を相互連携させて、より詳細に知りたい人のニーズを満たすことが必要だと感じた。ネーミングが「産業まつり」だと見本市のようだという意見もあった。長年浸透しているものを一夜にして変えるのは無理があるだろうが、転入出者も増加する中で、ニューカマーに対する配慮も必要であると感じる。様々な意見が出たが、もう少し議論したいことがあれば、この場を出してほしい。

【委員】タレントが出演したとのことだが、費用はどの程度かかったのか。

【渡部市長】手元に資料がないが、「日本エレキテル連合」へ依頼したのは4～5月。タレント自身の世間的な大ブレイク前だったこともあり、通常のギャランティで来ていただいたと聞いている。前日、読売新聞多摩版にも掲載されたこともあり、当日は、市外からもかなり来場いただいた。市が発信するだけでなく、マスコミにいかに取り上げてもらうかの重要性も痛感した。逆に集まりすぎて、安全上の配慮の面では課題が残った。

【委員】産業まつりだけではないが、イベントの反省点など、フィードバック作業は庁内で実施しているのか。

【企画政策課長】産業まつりについては関係団体で実行委員会を組織し、その中で毎年実施するにあたり、フィードバック作業等を行っている。

【委員】「日本エレキテル連合」で当日の会場はごった返した。その人ごみの中で、倒れてしまった人がいて、搬送に時間がかかった。救急車が入るスペースもなく、消防署に直接助けを求め、ようやく搬送してもらったという経緯がある。平成26年11月7日付の読売新聞の記事には警備を通常の5倍に増やして50人態勢にしたとあるが、それではとても追いつかないほどの大混雑だった。今後イベントを実施していく中で、今回のようなことがあると困るので、このような意見を吸い上げる場、庁内で検討する場があれば良いと思った。また「日本エレキテル連合」を見たくて、10時の出演時間前に自分も早めに会場入りしたが、どこに現れるのか分からなかった。1～2時間前に行ったが整理券は既に無かった。検証シートには「情報提供」という項目はないが、その項目があったら「適切ではない」という評価になってしまうと感じた。今後の検証課題としてほしい。

【委員】ポスターの配布先について、市外は多摩六都科学館だけ。どこまで広げるかという問題もあるが、人気アーティストを呼べば、それだけ人が集まるというのは予め読めること。イベントは水物だが、毎年実施しているイベントで、今年はこれだけ集めたいという数値目標と集客ターゲットを決めた上で、警備人数を決めるなど、そういう視点を持った方がいい。予算ありきで決めるのではなくて、そういった実績を積み重ねた上での最適ポジションがイベントのノウハウになれば良いと思う。また、プログラムの協力者一覧で、萩山町が2つしかない。町ごとの熱意が垣間見えるようだ。協力者をどこから募り、基準はどのようなものか。自分が参加している、最近増え始めている市民活動団体、意識的に市民参画をしようとしている市民団体の名前が見当たらない。市老連くらいである。協力者の募り方で、そういった活動をしている団体にスポットを当ててやる知恵になればいいと感じた。

【委員】市側で事前に目標とした人数と、事業後の実績についての検証を自ら行った後に、外部から客観評価をする。つまり自分たちの目標、プラス市民の評価、それに対しての外部からの客観評価があれば、かなり正確な検証が出来るのではないかと。ISOでもそのように評価している。

【委員】少し話が飛ぶが、会場を久米川駅前でできないか。市制施行前から続いている伝統的な祭りであり、趣旨は産業まつりで良いが、久米川駅・東村山駅等で実施できないか。花小金井のフェスティバルのように。そのように駅前でするという考えはないのか。

【経営政策部長】駅前ではないが、東村山駅からスポーツセンターまで伸びる通称さくら通りが開通した時、あの場で出来ないかということでもかなり検討をした。まず問題となるのは、交通を遮断しなければならないこと、それも開催日数は2日間である。また、機材を運ぶ車両を止める場所、飲食店を出店する際の水場の問題、手洗い所の問題、諸々の課題を検討した結果、実施は困難という結論に至ったという経緯がある。何度か検討はしている。

【会長】様々な意見をいただいた。先ほどの別の委員の意見では地域によって温度差があるということだったが、情報提供という観点で言えば、幅広く公平に行うことは大前提だが、あまりに地域間に差があるようなら、例えばパンフレットなどを、このような地域には手厚く配布するというようなことを検討しても良いか。相当大がかりな祭りであるので、安全管理や、機材や人の流れなど配慮しなければならない。だとすれば、全市巻き込んだ情報提供の仕方とはどのようなものか、また、ニューカマーの方への対応、積極的にイベントに参加し詳細な情報を得たいという方への対応など、広く行き渡らせることと、深く浸透させることのバランスをどうとるのが重要だと感じた。何かあれば、また最後にご意見いただきたい。次の案件に移る。

②ごみの出し方の変更 ○事務局より「ごみの出し方の変更」についての概要説明を行った。  
(「事業に関する手法等の調査票「ごみの出し方の変更」参照)

【会長】ごみの収集・分別は、協働の初歩。市民の協力無しにはあり得ない。非常に重要な施策であると認識している。今回も委員の意見を順に聞きたい。

【委員】説明会を間近で見えていたが、回数としては十分だと思うし、職員には頭が下がる思い。広報もしっかりやっていた。ただ、評価するにあたり、年間参加者が1,000何人ということだが、市側が最初に設定していた人数に対してどうだったのか、市の考えを聞いてからでないと、評価し辛いと思った。システムが変わってから、今現在も直接職員が市民の元へ出向いて説明をしている。コアな部分でも情報発信をしていると思う。それは、補足情報として付け加えさせていただく。

【委員】私も全体として素晴らしいと思う。ただ、自分で付け加えた項目でも評価した。説明会はこれだけの回数をよくやったと思う。パンフレットは実際に我が家でも冷蔵庫に貼って活用している。市報も詳しく書かれている。気になったのは、「ごみ見聞録(臨時号)」にあった、ごみの出し方を変えるようになった経緯だが、秋水園への搬入車両数を減少させることとあり、ごみの出し方の変更前は実際にトラックがどれほど行き来し、それがどれだけ減ったのか、裏付けが取れば、事業の立派な効果になる。また、ごみカレンダーはHPでアクセスしやすく分かりやすかった。だが、紙おむつの記載で、市の指定ごみ袋でなくても回収してくれると誤解されるような記述がある。

小さい字で「未使用の紙おむつ、ペット用紙おむつは、指定収集袋に～」とあって紛らわしいので、実際にこのルールが守られているのか気になる。「分別に迷うもの」の一覧で「タイヤ」があるが、これも自転車のタイヤも含まれるのか、これだけでは分からない。HP自体は問題ない。庁内放送も簡単明瞭で良いと思う。

【委員】ごみの収集方法変更はヒットだと思う。職員の苦労が伝わってくる。一番のポイントは個人責任にしているということだ。離れたところに集積所があると自分以外のごみの匂い等が気になるが、自宅前に出せば、個人責任に全て帰結する。他人から影響を受ける、つまり、人のせいで私の家の前はいつもごみだらけになる、そのような認識がなくなる。それが、一番の成功要因だと思う。「産業まつり」のチラシは見たことがないと発言したが、このごみのパンフレットは、家族を通してよく目にしてきた。市の努力を感じている。相対的に評価は良い。HPに3(どちらともいえない)を付けたのは、それだけ市の情報量が多いことの裏返しなのだろうが、なかなか専門的な情報になると、目的のページに行き着くのが難しい。索引する基準など工夫して欲しい。

【委員】一つ伺いたい。外国人に対する説明はしたのか。差別するわけではないが、分別して出すという癖がないように感じる。実生活でもそれを感じる事が度々ある。「産業まつり」と一緒だが、事業毎に色を統一して分かりやすい印刷物を工夫してほしい。独自のアンケート調査で、評判は概ね良かったが、中には困っているという意見もあるので、所管の方へフィードバックしてほしい。

【委員】評価総体はとても良い。特に説明会はこれだけの回数を実施すれば、行けない人はまずいないのではないと思う。ただ一点、粗大ごみの搬入に関してだが、先日、自己搬入で秋水園に持込をした際、持込分も分別しなければならぬと知らなかった。それが、手元の資料ではどこにも書かれていないので「自己搬入する際も分別を」の一言をどこかに記載して欲しい。また、別の委員も言っていたが、自分も外国人に対する説明の有無を聞きたい。また、不法投棄件数を示した資料の中で「不法投棄回数」の他に「その他」1~2袋とあるが、これは何を示しているのか質問したい。

【委員】資料をみる限り、説明会をいかに頻回に実施したか、大変だったと思う。情報は発信するだけでなく、発信した情報がいかに相手に伝わり、行動変容を起こすかまでが評価だと思う。それを踏まえると、守っていない自宅にはチラシを入れるなど、発信後、行動変容が見られない場合は、更に追加発信をして促していくということがなされており、この事業に対する評価は高い。ただ、イベントと違い、ごみの出し方の変更をするということが決まっていたのであれば、もっと早い時期、1年前などから「変わる」ということだけでもアピールしても良かったのではないかと。また、ごみカレンダーは非常に実用的で分かりやすいが「10月から変わりました」の一言があっても良かったのではないかと。9月までは「10月から変わります」の文言があったので尚更。

【会長】今回は全体に評価が高いようだ。広報も非常にしっかり実施した結果だと思う。いくつか質問が出ていたが、事務局で回答できるならお願いしたい。

【事務局】搬入台数については、年間を通じた実績を集計して「秋水園事業概要」という冊子を発行している。平成26年度分は現在編集中である。発行されれば搬入台数についてはそこで記載されているので、確認願いたい。説明会の参加人数については、市の方針として、市報や啓発紙の全

戸配布をしているので、基本的にはそれを見れば全員が理解できると考えている。その上で、それ以上知りたい、質問をしたい等の市民ニーズに応えるため、説明会を企画した。参加人数を募りたくて企画したものではない。説明会に不参加の方は基本的に理解しているという認識であり、市報や啓発紙等の他の媒体できちんとPRが出来たと考えている。外国人向けの説明会の実施はしていないが、パンフレットを多言語で用意し、市民相談・交流課の窓口で配布し、来庁される方にはご案内をした。ただ、言語は多岐に渡り、集合住宅で分別のやり方が分からないという方もいたので、その場合には「出前講座」ということで集合住宅に出向き、分別説明会を行い、直接相談させていただいた実績がある。もし個別にこのようなケースがある場合には、所管に問い合わせれば対応可能である。

【委員】HPを見たが、多言語でパンフレットのダウンロードも出来るようだ。それを紹介してほしい。

【事務局】英語、中国語、韓国語の3カ国語に対応。ごみ袋にも表記有り。また、ごみ量の質問も出ていたが、それも先ほど紹介した「秋水園事業概要」の中に記載される予定である。

【委員】できればその中で、どの時間帯の往来台数が多いのか分かると良い。そこで騒音などが分かるか。

【事務局】秋水園の開園時間はAM8:30だが、PM4:00までに搬入することと決まっているので、基本的にその時間を超えることはない。また減量指導件数の「その他」についての質問については、不法投棄は基本的に、指定ごみ袋に入れなくて捨てられることが多いが、稀に指定ごみ袋には入れてあるが出す曜日が異なる、また、廃棄場所が異なる等があり、そういったものを回収した件数である。

【会長】事務局の回答を聞いても、感心させられる。どの自治体でも少数派の外国人対応には苦慮しているが、東村山では主な言語を押さえ、個別の相談にも応じている。外国人留学生は「日本人は細かい」と驚くことが多いが、それはルールとして教えていかなければならない。東村山はいい方向にリードし、きめ細かいと感じる。話の本筋から外れるが「ごみの出し方の変更」に至るプロセス自体が、まちづくり、市民参加の手法をとっている。初めに市民の意見を聞いて、パブコメをやって…。市民を巻き込んで政策・立案している。こういったプロセスこそが、本来の「見守り」の対象なのではないかと思う。来年度以降の「見守り・検証会議」のやり方について、次回以降、そのことを念頭に置きながら、進めていければと思う。きめ細かく政策・立案をしている事業を、きちんと検証していった方が良くと思う。他に何かあるか。

【委員】前回の会議で出された資料で、市の事業がこれほど多岐に渡っていると知り驚いた。一般の市民は、どうしても「税金を取っているのに、なぜやらないのか」という認識になってしまいがち。本来、市はこんなことをやっているとして市民に「知ってもらおう」ことも、大切な市民参加の意識のベースになるのではないかと。そういった努力は勿論しているだろうが、そこがポイントかと思う。それを説明する機会がどこにあるのか。あのような資料を見せても、分からない人は分からない。それでも、人づてにでも発信しつづけていくことが大切であると感じる。

③市制施行50周年記念式典 ○事務局より「市制施行50周年記念式典」についての概要説明を行った。

【会長】先ほど同様に、順番に発表願う。

【委員】壮大な事業であり、大変だったと思う。評価が低いところは、小さな子どもにも分かりやすいかという観点で付けたので、特に問題があった訳ではない。記念グッズについては、写真のみでの確認のため、デザインや質の評価は出来なかった。情報発信という面では、評価項目にはないが、チラシ・ポスター以外にも、子どもたちをイベントに参加させることで、子どもから親への発信で情報共有化が図られるといことがある。今回はそう言った面でも、大きな発信が出来たのではないかと思う。

【委員】50周年記念事業については、十分情報発信されていたので良かったと思う。だが、チラシの発行時期については、国分寺市も昨年50周年だったが、それを周知するチラシが国分寺市の方が早かった。勿論、市長が議会等で「来年は50周年」等と発信してはいたが、市民レベルで市制施行50周年を意識させる取り組みが国分寺市の方が早かった。そういう意味で、少し出足が遅かったか。記念グッズの製作個数を4(あまり適切でない)としたのは、個人的に、式典の際に先着1,000名に配布されたという「ひがっしーうちわ」が欲しかったが、当日どこで配布されているのか分からなかった。市報等に記載もなかった。その場にいた市の職員に聞いても分からなかった。トークショーで配布した「ひがっしー木製クリップ」も同様に、手に入らなかった。概ねは良かったと思う。

【委員】市報について、50周年ということで、市民が自治の中心であると決めているのだから、例えば、昭和39年の市制施行の年に生まれ、市内で働いている人など、少なくとも男女1名ずつくらい、喜びのコメントを掲載しても良かったのではないか。有名人ばかりで、一般市民の登場がない。また、HPについては、説明文が少なく画像ばかりだったので、もう少し説明が欲しい。ポスターの掲示時期は10月1日からとなっていたが、最低でも1ヶ月前からは掲示した方が良かったと思う。式典パンフレットをどこに配布したのかが分からなかった。また、式典パンフレットの中にも、先ほどの市報と同じだが、一般市民の声を載せても良かったと思う。SNSは式典終了後も市の魅力をPRする内容で継続して欲しかった。

【委員】この50周年記念事業は、自分自身が団体で参加した事業であり、非常に興味深く見ていた。50周年ということで1度しかないもので、非常に良かったと思う。産業まつりにしてもそうだったが、元々自分自身が、市のイベントにあまり興味がなかった。その中で、この50周年記念事業がなぜ良かったかと言えば、市民活動団体「よろず交流会」からこのイベントの存在を知り、そこから市老連と知り合い、話が広がっていった。つまり、市民活動の典型的な広がりの中で参加できた事業である。やはり、ポスターも大事だが、参画するということになると、人と人が目を合わせて、繋がっていくのが大切であると実感できた事業である。そういった意味では、もっと良い評価を付ければ良いのだが、一方で「お祭り」であるからこそ、皆がこれだけ協力したのかとも思う。

【委員】50周年記念ということで、かなり力を入れたというのが伝わってくる。ポスターにしても、練りに練った内容であると思う。褒めるところはあっても、指摘するところは見つからなかった。自分も別の委員の手伝いで少し参加したが、式典の際、ごみをどこに捨てれば良いのか、分か



り辛かった。柱のところに隠れていて分かり辛かったので、適当に捨ててしまっている市民もいた。市の職員が回収している姿を見かけたが、職員も色々な面で力を尽くしているのが伝わってきた。

【委員】自分も式典に参加したが、本当に素晴らしいと素直に感じた。その中で、様々な部署の職員と関わり、市役所を挙げて実施しているというのは伝わってきたが、そこに一般市民の関わりがどれだけあったか、その温度差が気になるところであった。だが今、別の委員の話聞き、事前の段階からそのように市民参画があったと聞いて納得できた。ただ、市民の1/4が参加したということで盛大に行われた事業であると感じる反面、残り3/4の市民にも、50周年という記念すべき年を体感して欲しかったと思う。チラシを20,000部発行したとのことだが、残った枚数をどうしたのか伺いたい。

【会長】こちらの事業も概ね良い評価が多かったと思うが、事務局で質問に答えられるようならお願いしたい。

【事務局】式典パンフレットをどこに配布したかということについては、写真一覧を参考にして欲しい。式典の招待者に配布したグッズの中に入っている。パンフレット単独で配布したものではない。チラシの残部については、当日会場を訪れた来場者にプログラム代わりに配布した。

【委員】参加者一覧だが、東村山第二・五・七中学校が合唱で参加となっているが、もっと増やせなかったのか。全ての中学校が出れば、それだけでもっと盛り上がりも創出できたのではないか。何か基準があったのか。

【事務局】式典とは別に、八国山芸術祭という記念事業を実施しており、トータルすると全ての中学校が参加している。

【市長】本日、議題として挙げているのは10月26日の記念式典だけだが、年間を通して様々な市制施行50周年記念事業を実施した。中高生の文化系の部活動の発表の場として8月に八国山芸術祭を実施した。そこを合わせると、すべての中学校が参加している。年間トータルすると、すべての中学校が何かしらの記念事業に参加しているということである。

【会長】講評を聞いていても、概ね好評価である。印象的な意見として、委員の、学校単位で参加すると、子どもから親へ、確実に家庭内の口コミが広まるということ。また、別の委員の、参加している市民活動団体から、情報が広がっていくということがあった。多くのチラシを撒くだけでなく、いかに口コミに繋がる場所に効果的に周知していけるかが重要だと感じた。また、他の委員のように、深く参加したい、グッズが欲しいというような、所謂、市のファンというような市民に一步踏み込んだ情報提供が出来ると、更に痒いところに手が届くと思う。広く周知するのも大切だが、その奥行についても工夫すると、効果的な情報発信が出来るのではないか。他に意見はあるか。

【委員】3事業だけでなく、すべての市の事業に対してもだが、チラシやポスターにかかる予算を削って、職員のネームプレートにイベントを告知する一文を載せると、職員一人ひとりが歩く広告塔になってPR出来るし、経費も掛からない。窓口に来る市民は、まず職員のネームプレートが目に行く。外で働いている市民は、ポスターが貼ってあっても、立ち止まって読む暇がない。ポスターを減らして浮いた経費で、例えば、東村山市は他市に比べて駅の数が多いので、駅の改札のタッ

チパネルの部分にシール等で、いやでも目に入るところに広告を出せると良いと思った。

【委員】ひがっしーのポロシャツを販売していたが、高価である。一枚 1,000 円くらいのプリント Tシャツで、市民が買い求めやすいグッズを作ると、記念に買おうという気になる。

【委員】庁内放送について。一日に 10 時と 15 時に庁内放送をしても、ほとんど効果はないのではないか。やるならば、市内公共施設の入口で、一時間毎にテープで流すなど。中にいる職員の邪魔にもならず、周知を図れ、効果が出ると思う。

【会長】検証作業はここまでにしたい。次回は答申(案)の検討になる。事務局と相談した中で、まずこれまでに出了意見、今日の部分が中心になると思うが、それを文字に起こし、次回会議の場で精査し、取りまとめたものを答申(案)としたいが、それで良いか。

【委員】全委員同意。

【会長】ではそのように、事務局に取りまとめてもらいたい。次回、時間があれば、来年度の進め方についてもアイデアを求めたいので、そのつもりで願います。

### 3 その他

○次回の日程を 11 月 4 日（水）午後 7 時とする。